

2026年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース			教科担任		
理科	化学基礎	2	2年次・文系			坂口 史治		
使用教科書	改訂版 化学基礎 (数研出版)		使用副教材	リードlightノート 化学基礎 (数研出版)				
科目の目標			道徳教育のねらい					
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。			自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ、自然と人間との関わりについて認識させることで、生命を尊重し、自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察、実験を行うことで、科学的に探究する力を育て、科学的に探究しようとする態度を養い、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育成する。					
学習活動内容			育てたい6つの力 (資質・能力)					
			1	2	3	4	5	6
			主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自己認知・協働力	計画実行力
1	第1編 第1章 物質の構成			○	○			
2	第2章 物質の構成粒子			○	○			
3	第3章 粒子の結合			○	○			
4	第2編 第1章 物質と化学反応式			○	○			
5	第2章 酸と塩基の反応			○	○			
6	第3章 酸化還元反応			○	○			
7	定期考査		○			○		○
8	小テスト 単元テスト		○			○		○
9	課題提出		○		○		○	○
10	グループ活動 等		○		○		○	○
11	実験実習		○		○		○	○
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか。また、自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けているか。		自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか。			自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているか。		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。							
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料	
	知識・技能	○	◎			○		
	思考・判断・表現	◎		○	○		○	
	主体的に学習に取り組む態度	○	○		○		◎	

化学基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4月 (4)	第1部 物質の構成と化学 第1章 物質の構成 (9)	生活の中に化学についての再発見をし、化学の役割について理解を深める。物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲を持つ。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	1 純物質と混合物 2 2 物質とその成分 3 3 物質の三態と熱運動 2 実験・探求活動1 2 章のまとめ			
	5月 (7)						
	6月 (8)					第2章 物質の構成粒子 (7)	1 原子の構造と電子配置 3 2 イオン 2 3 周期表 2
	7月 (7)					第3章 粒子の結合 (17)	1 イオン結合と分子 3 2 共有結合と分子 6 3 配位結合 2 4 分子間にはたらく力 1 5 高分子化合物 1 6 共有結合の結晶 1 7 金属結合と金属結晶 1 実験・探求活動2 章のまとめ 2
	8月 (3)					第2部 物質の変化	1 原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。
9月 (11)	第1章 物質量と化学反応式 (10)						
後 期	10月 (6)	第2章 酸と塩基の反応 (12)	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および、pHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	1 酸・塩基 2 2 水素イオン濃度とpH 2 3 中和反応と塩 4 4 中和滴定 2 実験・探求活動4 2 章のまとめ			
	11月 (6)						
	12月 (5)					第3章 酸化還元反応 (11)	1 酸化と還元 3 2 酸化剤と還元剤 2 3 金属の酸化還元反応 2 4 酸化還元反応の利用 2 実験・探求活動5 2 章のまとめ
1月 (3)	※ 考査 (4)			※定期考査 年4回 4			
2月 (6)							
3月 (4)							